AGRI WORK POINT
アグリ　ワーク　ポイント

米　収穫後のほ場管理

農業経営支援課　渡辺 彰人

秋耕をして来年のガス発生を防ぎましょう

稲わらが来年まで残っていると、気温の上昇と共に急激に分解されてガス害の原因となります。収穫後に耕運を行って稲わらの分解を促す事で、春～夏のガス発生量を抑えましょう。

以下の資材を施用することで稲わらの分解をより促進できます。

- **石灰窒素　10～20kg／10a（ジャンボタニシ軽減駆除も兼ねて）**
- **わらゴールド　30～45kg／10a**

土壌改良資材を積極的に施用しましょう

ケイ酸質資材施用の効果として、登熟が向上し粒太りが良くなります。また発根を促進し、茎や葉を丈夫にするので倒伏や病害虫に強くなります。

- **けい酸加里プレミア34　60kg／10a**

　ケイ酸と加里の相乗効果で根張りが良くなり根が活性化します。

- **とれ太郎　80kg／10a**

　作物へのケイ酸吸収が高く、リン酸・苦土・石灰を含むので稲を健全に育てられ、収量や品質の向上につながります。

- **オイスターミネラル　100kg／10a**

　カキ殻とケイ酸のダブル効果で強い稲づくりができます。

来年度の雑草を減らす

刈取り後、まだ雑草が生育している時期に除草剤を使用することによって、来年の種子や越冬する雑草を減らすことができます。

- クロレートS粒剤　20～25kg／10a
- プリグロックスL　100～150L／10a

※右記の農薬は毒劇物になります。お買い求めの際は、印鑑の持参をお願いします。